

西多摩医師会報

創刊 昭和47年7月

第401号 平成18年5月



平成18.19年度 西多摩医師会新執行部発足

目 次

	頁		頁
1) 会長に就任して	真鍋 勉 … 2	8) 伝言板	広報部 … 14
2) 副会長に就任して	小机敏昭・横田卓史 … 3	9) 地区だより	羽村地区
3) 新担当部長・委員長・監事就任にあたって	各担当理事・監事 … 4		稲垣先生、横内先生お祝いの会
4) 平成18.19年度西多摩医師会各部分掌表			小林重雄 … 15
医道審議会表	広報部 … 8		定時総会ならびに懇親会
5) 平成17年度第2回定時総会開催	広報部 … 9		山川淳二 … 15
6) 感染症だより	西多摩保健所 … 10	10) 理事会報告	広報部 … 16
7) 専門医に学ぶ	吉田英彰 … 11	11) 会員通知・医師会の動き	事務局 … 20
		12) あとがき	野本正嗣 … 22
		13) お知らせ	事務局 … 23

会長に就任して



真 鍋 勉

前期に引き続き今期2年間会務運営を担当する事になりましたが、医療を取り巻く環境はますます厳しい状況にあり、さらなるご支援ご協力をお願い致します。前期は圏内における救急医療体制の構築、福生病院の問題、IT化の促進、そして会館建設の4項目を会務の重点項目にしましたがそれぞれ道半ばであり、今期もこれらを中心に据え会務を執行して行きたいと思えます。特に、会館建設の件については、会館建設のための準備委員会を設置し、土地取得等迅速に対応するよう答申をいただきましたので、次期総会に提案する予定であります。

国会はいよいよ医療制度改革関連法案の実質審議に入りました。「医療費適正化」の名の下に、ほとんど医師会や関連団体との協議もなく、唐突に次々と極めて重要な法案が提出されています。法案は多々問題点があり、例えば、受け皿の無い療養病床の削減は、介護難民を生む危険性が大きく、また、地方分権化の

中で現在国が運営している政管健保が都道府県に移管、再編されると保険料も自治体の策定した医療費から決めることとなります。そうなれば、当然のことながら自治体間に格差が生じるであろうし、これは国民皆保険制度の崩壊を意味します。こうした状況の中で発足した日本医師会唐澤新執行部がどこまで「国民の医療」を取り戻すことが出来るかは、それを支える我々地区医師会の活性化にかかっています。自由経済社会のなかで我々の医療経営は国の統制下にあり、正に社会主義経済下にあるのが現状であります。この不合理を是正するには医師会という組織によって国政に対応する以外に方法はないのでは無いでしょうか。医療を担う我々医師一人一人が日本の医療の危機的状況を認識し、我々の手に真の医療を取り戻すため、医師会活動に積極的にご参加下さいませようお願い申し上げます。就任の挨拶と致します。

副会長に就任して



小机敏昭

このたび、2期目の副会長を命じられました。会長を補佐し、医師会事業が円滑に進められるよう、努力して行きたいと思えます。担当は学術部・病院部・保険部、となっておりますが、継続して担当しているのが医療連携推進事業であります。前年度は検討会からのアンケート調査に会員各位のご協力をいただき、ありがとうございます。今年度も引き続き事業が実施されますので、西多摩地域での完結型医療実現のため、宜しく願い申し上げます。



横田卓史

この度、会長の御指名により副会長の大役を務めさせて頂くことになりました。会長も2期目に入れ就任当初掲げられた4つの課題を遂行すべく日夜御努力をされている折、会長と会員の皆様の間で会長を補佐しつつ会務を遂行することが私の任務と心得ております。これまで8年間理事を経験しここ数年は経理、総務と本会の会務全体に係わる職務に携り自分なりに全体像が把握できるようになって参りました。それにつけて医師会活動に関して喫緊の課題と思うことが2点あります。一つは従来からの懸案でもあります医師会の活性化、特に理事会の活性化です。これには各担当理事の先生方に確とした目的意識を持って御尽力頂き、過重な御負担をおかけする事無く存分に実力を発揮して頂くことです。

なかなか良薬はありませんが、日頃理事の方々と密接に連絡を取り合い常に意見交換を行い、組織全体が硬直すること無く円滑に機能するように配慮が必要です。

特に昨今地方分権の流れで多くの事業が中央から市町村に移管され、医師会も直接行政側と交渉の場に立たされるため、迅速な情報収集と対応が求められます。理事を含めた全会員の連携が重要ですが、特に理事会の活性化が求められる所以です。もう一つは医政に関することです。会員の先生方に可及的に医政に関心を持って頂きたいと思えます。斯く言う私自身これまで特に活発に政治活動を行って来た訳ではありませんが、執行部の立場から昨今の政治主導の医療施策に直面し、この厳しい現状を打開するには政治力に働きかける他は無いと痛感しております。特に間近の参院選など国政選挙の折には会員の総力を結集し三師会はもとより、看護師、接骨師の方々との連携も不可欠です。

最後に今回の保険改訂に関して少々触れさせて頂きますと、今後西多摩地域に多大な影響を及ぼす事項は療養病床の変更に関する事項だと思われまます。現在25万床の医療型療養病床を6年後に15万床に縮小し、13万床の介護型療養病床は廃止される方針が示されました。特養の待機者が34万人と言われる現在、療養病床からはじき出された医療難民の受け皿はどこにあるのでしょうか。又従来より西多摩は高齢者対応の慢性期入院病床の多い地域です。今後これら病院の先生方は厳しい対応に迫られると思えます。

数年後には改築中の公立阿伎留、福生病院が装いも新たに開業いたします。病一病、病一診、診一診を含めた地域完結型の医療連携の推進が益々重要課題となります。今後2年間微力ながら精一杯会務を務めさせて頂きまますので会員の先生方の御協力、御指導を宜しくお願い申し上げます。

新担当部長・委員長・監事就任にあたって



総務部

田坂 哲哉

理事二期日で総務担当理事となりました田坂です。前期は保険担当として2年が過ぎましたが、経験も少なくあまりお役に立てなかったように思います。総務担当に伴い昨年度の事業報告をみましたが、多岐にわたり関連することが多く、つとまるかと心配な面もあります。

医療費削減が続ぎ、療養病床の廃止など医療を取り巻く環境は悪化しています。高水準低負担の医療から中水準中負担へと路線が変更された中、医師会の役割や会員、自治体からの要望も変化が出てきています。今後二年間、医師会の運営や活性化に貢献できるように努めたいと思います。

御協力よろしくお願ひいたします。



総務部福祉担当

小林 浩

この度総務部福祉担当をおおせつかりました。福祉が担当する主な仕事はご承知のとおり、新年賀詞交歓会、納涼の夕べ、忘年クリスマス会です。それぞれ関係諸機関の方々との交流、病院・診療所会員間の親睦、職員・家族の皆様を慰労することにその目的があると考えます。

これらの行事を通じて会員相互の親睦、交流が深まり、またその結果として日常の診療がより円滑になるよう微力ですが努力する所存です。幸い歴代担当理事のご尽力により行事の内容は年々充実してきていると思います。その流れを変えないよう頑張りたいと思います。よろしくお願ひ申し上げます。

会員の皆様には、アトラクションや賞品の

内容を含め、企画に関するご意見、ご助言をどしどしお寄せいただけましたら幸いです。

尚、私事ですが昨年帰化をしたため旧氏名、下在正（べん ぎいせい）を改めました。この場をお借りしてご挨拶させていただきます。



病院部

西成田 進

このたびご推挙をいただき病院担当理事に就任させていただきました。よろしくお願ひ申し上げます。医師会活動の中での『病院部』は第一に地域医療全体を円満、かつ遅滞なく動かしていくための『病診連携』を『病』の側から推進していくこと、あるいは問題を提起していくことにあるかと思ひます。この地域に在る『病院』相互の連絡、医療費を含む病院としての共通の問題点の把握、それに対する提言などであり、さらに当然のことに『診』の側から提起されてくる問題の解決と、その活動は表裏一体をなしております。その意味で当医師会内の地域医療部などの活動のサポートの側面をもっているものと思われまふ。第二には病院間(内)での学術活動を医師会全体に開放していくことにあるかと思ひます。この面では当医師会内の学術部の一部をなすことになるかと思われまふ。これらの視点から与えられた任を果たしていきたく思ひます。会員諸先生のご指導、ご助言のほどよろしくお願ひ申し上げます。



学術部

野本 正嗣

学術部担当となりました野本でございます。学術部の事業内容は主に学術講演会・市民公開講座・パネルディスカッション・臨床報告

会の開催となっております。このうち学術講演会につきましては、月1回を原則とし、その内容も吟味し、up to dateなもの、会員の多くが興味を持ちやすいもの、複数の科に関連した内容のものなどを取り上げていきたいと考えております。市民公開講座は本年度は“心の病”をテーマに行う予定です。パネルディスカッションは病診連携を深めるような内容を検討中です。

委員の顔ぶれも各科を代表する先生方をそろえ、各科を広くカバーできる体制で2年間務めていきたいと考えております。会員の先生方で、取り上げて欲しい演題等、ご希望がありましたら、学術部委員までご連絡下さい。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



地域医療部

渡辺良友

最近、新聞の第1面で手術ミスで患者死亡などと書かれた。また手術後のガーゼの忘れ物は三面に書かれるようになった。30年前の大学病院は患者の家族はたとえ死亡しても痛だったからしょうがない、大学病院の有名教授に執刀してもらったから本人も本望だろうと納得した。その頃は新聞に書かれる事などなにもなかったと思う。

西多摩では、夜間救急で医者に見てもらえたか、もらえなかったかが、同じ位の有難さだったのかもしれない。

今後医師に対しての世論はどうか。なにも気にする事はない。自然体しかない。



公衆衛生担当

新井敏彦

このたび公衆衛生担当理事になりました新井です。前期は地域医療担当理事として小児救急問題などに関わっていました。

巨額の国家財政赤字を背景に市場原理主義

を導入した結果、格差社会の拡大、勝ち組負け組などの歪が生じています。都内某区における就学援助率は42%にも達し、改革に棄てられた家庭が増加しています。医療の現場においても、少子高齢化による医療福祉予算抑制のもと、様々な改革が朝令暮改の如く行われるために、医師会員への正確で迅速な情報伝達や行政担当者との意思疎通が滞る場合があります。また、医療難民の発生が危惧されております。このような状況下においては、今後、医療、福祉の末端にまで必要な情報あるいは行政との確認事項などを、以前よりも迅速に周知徹底するように考えておりますので宜しくご協力をお願いいたします。



介護保険担当

玉木一弘

我が国の医療モデルは、病院における先進的、専門的な急性期医療と、地域や生活環境におけるケアとしての慢性期医療の2極に集約されつつあります。後者は、介護、福祉提供者との連携によって、療養者のQOLと生活機能の維持向上を達成することを第一義に、かかりつけ医が暮らしの場にデリバリーして行かなければならないこととなります。かかりつけ医には、自らのテリトリーで、自らが地域包括支援センターを中心とする地域ケアのネットワークの核として活動する努力が求められます。生活習慣病者を診療所で待ち受けるモデルだけでは、医業は成り立ち難くなるでしょう。国会の、国民健康保険法に始まる医療関連法案の改定は、平成20年4月の高齢者医療制度の創設、24年の療養型医療施設の廃止に至り、その姿を現わしてくることとなります。今後、かかりつけ医がいかに制度に対応し、地域社会に貢献するかを考えていきたいと思っております。



産業医担当

渡辺 肇

平成7年にあきる野市に開業して以来、産科を中心に開業しておりますので、地区医師会の活動にもあまり参加が出来ませんでした。今回医師会理事に任命されましたが、分娩を取り扱っておりますので、夜間の仕事も多く、医師会の仕事を完全にはできず、他の理事の方々に御迷惑をかけることも多いと思います。がよろしくお願い致します。

この度は産業医担当に命ぜられました。産婦人科の医師の私には会社や工場での健康管理は畑違いの領域になります。しかし通院中の妊婦様方にも会社勤めの方も多数おられます。妊産婦の健康管理に事業主が行わなければならない事もさほど行われておらず、また、職場内の環境等母子にとって重要なこととなります。これらは産業医担当にも求められることは多少かけ離れておりますが、今後産業医の勉強を行いたいと思っておりますので御指導の程お願い致します。



学校医担当

鈴木道彦

このたび学校医担当になりました鈴木です。私は旧五日市町立五日市小学校の卒業で、現在、同校の校医をやっております。当時は800人近くはいた生徒も現在は500人程度、校舎も新しくなり、昔の面影はありません。ここ数十年の社会環境の変化は著しく、それに伴う生活環境、生活様式の変化は、児童生徒の成長、健康に大きな影響を及ぼしています。生活習慣病や性感染症、アレルギー疾患や新しい感染症への対応、凶悪犯罪の低年齢化や学校の安全性の問題など、今後学校医の職務は多方面からの情報収集と多くの専門家との共同作業が必要となっていくと思われ。さらに、児童生徒、保護者、管理職など

との複雑な人間関係に対処しなければならない教職員のメンタルヘルスケアも大きな問題です。学校の実態を踏まえ、地域と連携し、学校保健業務を推進して参ります。至らぬ点もあるかと存じますが、会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。



保険部

蓼沼 翼

保険部担当となりました日の出地区の蓼沼(たでぬま)です。

日の出ヶ丘病院に勤務して約15年、院長になって約9年になります。

以前勤務しておりました病院では、夜間透析などかなりの激務でしたので、当地でのんびりと過ごそうと転勤して来ましたが、その後の医療情勢の変化で、またまた忙しい毎日を送っております。

この度、西多摩医師会理事をおおせつかりましたが、仕事内容を未だ把握できておりませんので、諸先生方からの御指導をよろしくお願い申し上げます。

約50年位前、僕の父はある地方都市の医師会長をしていました。理事会の時は必ず徹夜麻雀をしてから帰宅し、朝方に遠くから父のスクーターの音が聞こえると、飼い犬が遠吠えをしていました。医師会の理事会というと、この光景を思い出します。



広報部

鹿児島 武志

平成9年に青梅市で開業し、広報部をこのたび担当させていただきます鹿児島です。2006年4月号の会報、400回記念号には先代の編集担当の先生方より寄せられた感想文では会報を編集する際のご苦勞がありありと述べられておりました。昨今の診療報酬改定でも明らかにになりましたように医療、また医療経営を

とりまく環境は一段と厳しくなってきました。そうしたなか、医療現場でさらなる改善策を模索する医師会の活動報告ならびに会員相互の情報交換や情報共有の場としてのメディアを提供する医師会報を先輩方と同様に滞りなく継続するよう努力してゆきたいと思っております。多くの先生方のお役にたてるような企画があれば随時追加してゆく予定です。ご寄稿の依頼をお願いすることになりますが、その節には宜しくお願い致します。



経理部

中野和広

引き続き青梅地区選出の理事に選任され、前期は福祉担当でしたが、今期は経理部担当となりました。西多摩医師会の理事を2年やってみて、医師会に対する印象がだいぶ変わりました。以前は医師会の運営というのは「誰かがやってくれるもの」という思いが強かったのですが、理事になってみて「個々の会員が支えていくもの」と感じるようになりました。開業したばかりの時は小さくても一國一城の主になったような気分で、自分のやり方でやっていけばよいのだと思ったり、診療するのが一番大事だからその他はまあどうでもいかなと思っていました。しかし、当たり前ながら一人では生きていけないわけで、ましてや国家資格に支えられて仕事をし、公的保険や公費（税金）によって収入を得ている以上、「公」の意識を持つことが重要だということに、理事をやってみて改めて気付かされました。この思いを保って理事の任を務めていきたいと考えています。



監事

松原貞一

真鍋会長が再任され、7人の新理事が加わって新執行部が発足した。一期目は前任者

の事業計画を執行しなければならず、思うに任せぬ会務もあつたかも知れないが、二期目は会長の意図する会務の執行が可能な時であり、会の発展のため、そして会員一人一人の為にも稔りある二年となるよう願って止まない。

社会の情報化は日進月歩である。我々が直接関与する医療行政はもちろん、医療を取り巻く介護、福祉、保健行政の変革も日々刻々の感を否めない。情報の遅れは対応の遅れとなり、会の衰退の大きな要因となる。行政から情報をもらって行政と交渉するようでは、地域の保健、医療体制に指導力を発揮するなど望むべくもない。現在の情報化社会では、インターネットを利用すれば、かなりの情報が入手出来る筈である。選ばれた理事の先生方は、出来るだけの確、正確、迅速な情報収集に努力され、地域医療の為にも又会員の為にも頼りになる医師会作りに努めて頂きたい。



監事

足立卓三

私が西多摩医師会の理事になった時（昭和57年）を考えると、今は文字通り今昔の感があります。当時は私より年上の先生方が圧倒的に多く、また未だ縦社会の名残も強く、理事会でも諸先輩方の激しい論戦を只々頭を低くして拝聴しているだけで、自ら発言するなどという事は殆ど出来ませんでした。でも公式の場を離れると、酒だ、ゴルフだ、旅行だ、麻雀だ、と盛大に遊びもしました。つまり仲間意識が強かったという事です。あまり自分の損得という事は考えない時代でした。

でも今では、仕方がないから医師会に入る、仕方がないから役職につく、こういった傾向がみられるように思います。

先日、診療報酬改定に際して井上信治代議士を招いての会で、ある質問に対しての代議士の答えで「困った時だけ来られてもどうにもなりません」、当然ですね。

もう一度考えてみましょう。私的な事だけではなく、公的な事も。

平成18年度西多摩医師会各部分掌表・医道審議会表

() 内 担当副会長 ◎印 担当部長 ○印 担当副部长

★印 委員長

平成18年4月

(8)

No. 401

担当副会長	担当理事	委員会名	委員長
副会長 小机敏昭(会長代行)	◎野本正嗣・○鹿兒島武志	学術委員会	★野本正嗣・新井敏彦・鹿兒島武志・桑子行正・小林 浩・中野和広 西成田進 義人・諸角強英・
学術部(小机)	◎渡辺良友・○新井敏彦	地域医療委員会	★渡辺良友・新井敏彦・横田卓史・小机敏昭・野本正嗣・田坂哲哉・小林杏一 鹿兒島武志・山川淳二・諸角強英・渡辺 肇
地域医療部(横田)	◎新井敏彦・○渡辺良友	公衆衛生委員会	★新井敏彦・渡辺良友・中野和広・田坂哲哉・横田卓史・小机敏昭・ 蓼沼 翼・川辺隆道
公衆衛生担当	◎鈴木道彦・○中野和広	在宅難病委員会	★新井敏彦・横田卓史・小机敏昭・川辺隆道・細谷純一郎・丸野仁久 神尾重則・辻 之英
学校医担当	◎渡辺 肇・○小林 浩	学校医委員会	★鈴木道彦・中野和広・細谷純一郎・新井敏彦・桂川敬太・川辺隆道・進藤晃 瀬戸岡俊一郎・奥村 充・星野 誠
産業医担当	◎西成田進・○田坂哲哉	病院委員会	★西成田進・原 義人・石田信彦・神定 守・川辺昌道・高澤 勤・高木 直 諸角強英・蓼沼 翼・三浦剛士・宮川栄次・唐橋善雄・櫻井秀樹・進藤 晃 原 洋二・田坂哲哉・岡本 忠
介護保険担当	◎鹿兒島武志・○渡辺良友	会報編集委員会	★鹿兒島武志・宮下吉弘・野村中夫・近藤之暢・渡辺良友・江本 浩 細谷純一郎・道正正達・古川朋輝・鈴木寿和・馬場真澄・石井好明
病 院 部 (小机)	◎蓼沼 翼・○渡辺 肇	社保指導整備委員会	★蓼沼 翼・野本正嗣・石田信彦・唐橋善雄・小林杏一・笹本隆夫 百瀬真一郎・山田英敏・鹿兒島武志・桂川敬太・波多野元久・野村中夫 田代 洋・森 智之・朱膳寺洋文・奥野 仁・栗原琢磨・葉山 隆 高水松夫・山川淳二
広 報 部 (横田)	◎野本正嗣(保険再審査請求審査 担当兼務)	国保指導整備委員会	★細谷純一郎・荒巻武彦・大畑洋一・田中穂積・森本 晋・平沢龍登 川島雅之・笹本良信・河内泰彦・佐野茂男・奥村 徹・清水佐和道 近藤之暢・尾形彰子・中村有邦・関谷進一郎・込田茂夫・奥村 充 柳田和弘・小林康光・篠原秀隆
保 険 部 (小机)	◎中野和広・○田坂哲哉	ニューメディア委員会	★中野和広・玉木一弘・小林 浩・田坂哲哉・高村 宏・鈴木道彦・山田 学
経 理 部 (横田)	◎田坂哲哉・○中野和広	福祉委員会	★小林 浩・鈴木道彦・宮下吉弘・山田 学
総 務 部 (横田)	◎玉木一弘 ◎小林 浩・○鈴木道彦 総務全員兼任	医事紛争処理委員会(地域理事) (電話苦情処理 110番)	中野和広・田坂哲哉・小机敏昭・横田卓史・新井敏彦・湯川文朗 川辺隆道・田原邦朗 (西多摩) 野本正嗣
都医専任理事 玉木一弘 (副会長待遇)	小机敏昭・横田卓史・田坂哲哉・中野和広・蓼沼 翼・川辺隆道・新井敏彦・田原邦朗	保健所単位地区責任者	
西多摩地区医療保健衛生協議会「医療協」	小机敏昭・横田卓史・田坂哲哉・中野和広・羽 村 瑞 穂 日 の 出 奥多摩 梶原		
地区名	青 梅 福 生 あき野 野 村 新井敏彦 湯川文朗 田原邦朗		
地区長名	中野和広 小机敏昭 横田卓史		
副地区長名	野本正嗣 渡辺良友 鈴木道彦 込田茂夫		
医 道 審 議 会			
(委員長) 米山秀雄・(副委員長) 原 義人・(委員) 塩澤三朗・水野村幸彦・小林康光・大畑洋一・神尾重則・			

平成17年度 第2回定時総会開催

平成18年3月29日(水) 第2回定時総会がフォレストイン昭和館に於て開催されました。
 司会は横田総務部長が担当し、以下の次第で進行いたしました。

1. 開会宣言 真鍋会長
2. 議長指名 宮川栄次議長を指名
3. 副議長指名 湯川文朗副議長を指名
4. 資格審査 会員総数 468名、議場出席者36名、
 委任状出席者230名、合計出席者数266名は会員
 総数の過半数(235名)以上のため、総会は成立
5. 物故会員に対する黙祷
 故 長島長節先生、故 鈴木良亮先生
6. 開会挨拶 真鍋会長
7. 議事録署名人指名 石井好明会員、木野村幸彦会員を指名
8. 議事
 審議事項
 第1号議案 平成18年度各部事業計画案につき承認を求める件
 第2号議案 平成17年度収支補正予算案につき承認を求める件
 第3号議案 平成18年度収支予算案につき承認を求める件
 第4号議案 本会役員・医道審議会委員の選任
 第5号議案 本会互助会役員の選任
9. 採決 第1～5号議案を賛成多数で承認
10. 閉会宣言 真鍋会長
11. 閉会挨拶 小机副会長

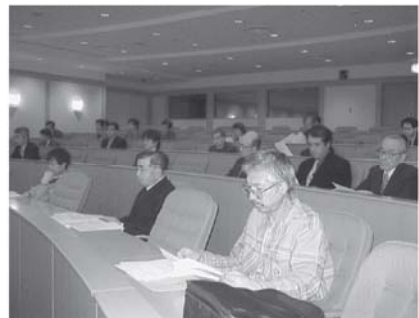


総会に先立ち、青梅市立総合病院院長 原 義人先生による「平成18年度診療報酬改定と急性期病院経営」のご講演が行なわれました。

また総会終了後、場を移して懇親会が行なわれ、会員相互の情報交換を含め、親睦が深められました。

総会議場出席者（敬称略、順不同）

真鍋 勉	原 淳夫	原 義人	田坂 哲哉
細谷純一郎	蓼沼 翼	木野村幸彦	宮川 栄次
横田 卓史	湯川 文朗	渡辺 肇	武藤 芳徳
西村 邦康	小林 浩	鈴木 道彦	酒井 淳
岡田 清己	岡本 忠	小林 杏一	松原 貞一
中野 和広	野本 正嗣	新井 敏彦	石井 好明
坂本 保己	諸角 強英	鹿児島武志	神尾 重則
小机 敏昭	渡辺 良友	瀬戸岡俊一郎	伊藤 敬一
藤野 淡人	足立 卓三	江本 浩	桑子 行止



(文責：広報部 野本正嗣)

感染症だより

新年度に入り、西多摩保健所保健対策課のスタッフも転入転出によりだいぶ顔触れが変わりました。不慣れた点が多々あるとは思いますが、旧スタッフ同様の御支援、御指導の程よろしくお願い致します。

<全数報告>

2006年第12週(3月20日～4月16日)～第15週(4月10日～4月16日)の間に全数報告の感染症はありませんでした。

<定点からの報告>

	12週 3.20～26	13週 3.27～4.2	14週 4.3～9	15週 4.10～16	2006年 累計
RSウイルス感染症	0	0	0	0	2
インフルエンザ	7	3	0	0	1,569
咽頭結膜熱	0	1	0	0	24
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	1	1	1	91
感染性胃腸炎	29	8	14	32	416
水痘	10	8	4	12	125
手足口病	0	0	0	0	4
伝染性紅斑	1	3	7	1	14
突発性発しん	3	2	4	3	32
百日咳	0	0	0	0	0
風しん	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0
麻しん(成人以外)	0	0	0	0	1
流行性耳下腺炎	5	1	5	2	87
不明発疹症	0	0	0	0	0
MCLS	0	0	0	0	0
合計	63	27	35	51	2,365

※基幹定点報告対象疾病<細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、マイコプラズマ肺炎、クラミジア肺炎(オウム病を除く)、成人麻疹>は報告があったときに掲載します。

<コメント>

感染性胃腸炎第15週の報告は32件(定点当り6.4件)と増加しましたが、東京都の第14週の報告数(定点当り5.83件)と大きな差は認められません。昨シーズンのピーク(第49週で24.6)との比較では、ピークの時期は過ぎたようですが、まだ注意が必要なようです。また管内の咽頭結膜熱の報告は第13週の1件のみですが、全国的には定点当りの報告数は増加し、過去5年間の同時期(第12週～第14週)と比較してかなり多く、1月中旬以降では大流行した2004年の同時期を大きく上回り今後の動向に注意が必要です。

<情報提供>

西多摩保健所管内の医療機関から中国帰りの人の高病原性鳥インフルエンザ疑い症例の報告がありました。幸いPCR検査等により否定されましたが、世界的には200例を超える症例が報告され、いつ国内で発生してもおかしくない状況にあります。このような状況から国では指定感染症に政令指定する方針が打ち出されています。

今年度も感染症発生動向調査(サーベイランス)にご理解ご協力をお願い申し上げます。

(文責：西多摩保健所保健対策課)

専門医に学ぶ 第17回

問題

【症 例】 46歳男性

【主 訴】 腰痛、両下肢痛

【家族歴】 特記すべきことなし

【既往歴】 幼少時に結核といわれたことあり（詳細不明）

【現病歴】 7、8年前より腰痛あり。ある日熱発し、腰痛が増悪した。翌日、歩行困難となり、さらに翌日、疼痛増強し体動困難となったため近医に救急搬入された。入院し、保存療法を施行していたが症状軽快しないため、約2ヵ月後、当院転院となった。

【現 症】 強い腰痛により体動困難。右臀部から大腿前面の強い疼痛あり。夜間、38から39°Cの熱発あり。SLR test 左80°にて右大腿部に referred pain +。両下肢筋力は、疼痛により力が入りにくい面はあったもののMMTはほぼ5。明らかな知覚障害なし。膀胱直腸障害なし。

【検査所見】

前医初診時

(血液検査) WBC 13000/ μ l, Hb 14.8, CRP 9.07, 血糖 180

(検尿) 糖2+



図1：前医初診時腰椎単純X線像

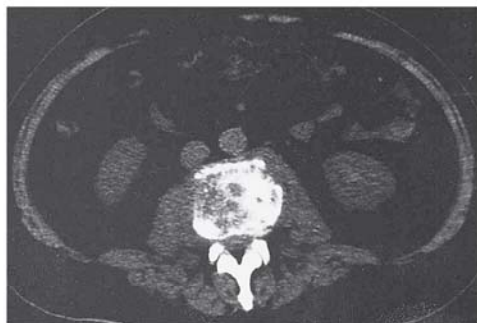


図2：前医での発症後約2ヶ月の腹部CT像

当院初診時

(血液検査) WBC 9800/ μ l, Hb 13.0, CRP 9.00, 血糖 313

(検尿) 糖3+



図3：当院初診時腰椎単純X線像



図4：当院造影MRI像

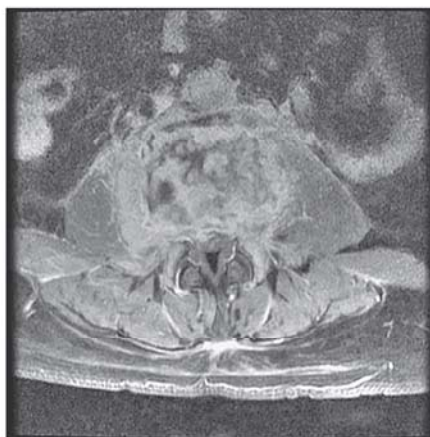


図5：当院造影MRI像

【問題1】診断は何でしょうか？

【問題2】治療法は？

解答と解説

公立福生病院 整形外科医長 吉田 英彰



【問題1】化膿性脊椎炎

化膿性脊椎炎は、高齢者や、糖尿病、ステロイドの使用など、全身状態が悪化したり、免疫状態が低下した compromised host の日和見感染として発生することが多くなっています。血行性に細菌が脊椎に到達し、終末動脈が豊富な椎体終板近くに初発し、椎体・椎間板に波及していきます。起因菌として黄色ブドウ球菌が最も多く見られます。最近では、高齢者でなくとも糖尿病の未治療など、比較的若い年代にも散見されます。発症型は急性型、亜急性型、慢性型に分けられます。亜急性型、慢性型では急性型と異なり、比較的穏やかな臨床経過をた

どることも多く、診断がつかず治療が遅れてしまうことがあるため、注意が必要です。

今回の症例では、急性型のため38℃以上の熱発、激しい腰痛を生じ、血液検査上、白血球増加、CRP値上昇などがみられました。

単純X線像では、まず椎体辺縁部の不整像が見られ、発症後数週間で、椎間板に面した椎体終板付近の破壊像や吸収像がみられ、しだいに椎体全体に病巣が広がり、椎間板高が狭小化します。図1の前医での単純X線像上は、加齢による変性像以外はまだ明らかな所見は認められません。図3の当院初診時の単純X線像では、L3/4椎間板高減少、L3・4椎体骨吸収像あり、化膿性脊椎炎が疑われま

す。通常の場合、適切な治療を行えば、数ヶ月後には病巣部に骨硬化像、骨棘形成、上下椎体への架橋形成等の骨新生像がみられ、最終的には罹患椎体間は骨性に癒合します。鑑別しなければならない疾患として、転移性脊椎腫瘍が挙げられます。破壊性の骨変化を呈しますが、隣接椎体に病巣が広がっても椎間板（軟骨）はバリアとなり侵されないため、化膿性脊椎炎と異なり椎間板高は保たれます。また、脊椎カリエスの鑑別は、単純X線像のみでは困難ですが、化膿性よりも膿瘍形成が豊富なため、psoas shadowの腫脹像が見られやすく、CTやMRI等の所見を加味して鑑別します。脊椎カリエスの場合、今回の症例のような激しい腰背部痛はまれです。

前医での発症後約2ヶ月でのCT検査上は、椎体破壊像を呈しています。転移性脊椎腫瘍では、椎弓根に近い椎体部の破壊からはじまることが多いのですが、今回のCTでは、椎弓根部の骨破壊像は認めませんでした。また、大腰筋部の腫脹も見られます。

MRIでは、膿瘍や肉芽の状態、脊柱管内神経組織への影響が把握しやすいため、診断には最も重要な位置を占めます。本来、膿瘍を形成することは結核性脊椎炎に比べて少ないのですが、脊柱管内へ流入し神経障害を生じることもあります。今回の症例では、診断確定までに時間がかかり、膿瘍形成が広範囲に発生し脊柱管内まで及んだため、強い根性神経痛を生じました。MRI所見は病巣椎間の上下椎体にT1強調像で低信号、T2強調像では高信号の領域が認められ、炎症の鎮静化に伴い信号変化の範囲が縮小していきます。造影MRIを行うと、脊椎カリエスの場合膿瘍の辺縁増強効果（rim enhancement：病巣中央の乾酪壊死巣（非造影）を取り巻く反応性肉芽が造影される）がありますが、化膿性脊椎炎では見られません。今回の症例では、内科にて肺結核など精査していただきましたが、結核の疑いはありませんでした。また、転移性脊椎腫瘍では、前述の通り椎間板高が保たれ椎間板を挟んで上下の椎体が侵されることはなく、病巣は均一の輝度で椎体全体に及ぶことが多いです。

最も確実な診断は生検による起炎菌の同定と組織診断ですが、今回は臨床経過から化膿性脊椎炎を疑い、抗生剤投与により著効したため、そのまま保存的に加療いたしました。当院では、昨年にも34歳男性でやはり糖尿病を発症して、感染した例もありましたので、若年者でも激しい急性の腰痛の場合、念頭に入れなければならない疾患であると思います。

【問題2】

治療の原則は、ベッド上安静と抗生物質投与による保存的治療であり、その後体幹ギブスあるいは硬性コルセット着用にて離床していきます。また、基礎疾患の治療を並行して行うことは言うまでもありません。

保存療法に抵抗する疼痛・麻痺・炎症のある場合は、手術的に病巣搔爬、骨移植固定術を行います。

今回の症例では、抗生物質投与ならびに糖尿病のコントロールによって、入院後3週目にはWBC 7100、CRP 0.38と炎症も沈静化し、現在も炎症反応は陰性です。



図6

発症後約4ヵ月目の腰椎XP L3/4椎間板高はさらに減少し、前方は一部癒合してきています。椎体全体も骨新生が生じ、当院初診時（図3）と比較して骨吸収像が改善しています。

伝言板

① 第3回青梅呼吸器勉強会

日 時：平成18年5月16日（火）19：30～
場 所：青梅市立総合病院 南棟3F講堂
青梅地区以外の先生方も奮ってご参加下さい。

② 西多摩医師会 平成18年度 第1回定時総会

日 時：平成18年5月26日（金）19：30～
場 所：フォレストイン昭和館

③ 第4回西多摩消化器疾患カンファレンス

日 時：平成18年6月9日（金）19：30～
場 所：公立阿伎留病院 1階講堂

症例募集：今回は主題を設けておりません。消化器疾患で印象に残っている症例、興味ある症例につきまして募集いたします。

締め切り：平成18年5月12日（金）

連絡先・問い合わせ先：

エーザイ株式会社 多摩コミュニケーションオフィス（担当）竹田篤志
FAX：042-535-9436
TEL：042-535-9411
e-Mail：a-takeda@hhc.eisai.co.jp

④ 西多摩医師会 学術講演会

日 時：平成18年6月5日（月）19：30～
場 所：公立阿伎留病院 1階講堂
講 師：公立阿伎留病院血液透析室室長 佐藤安男先生
演 題：前立腺肥大症の診断と治療
— 病診連携を通じて —



地区だより



羽村地区

稲垣先生(古希)、横内先生(還暦) お祝いの会 報告

羽村相互診療所 小林重雄

去る3月25日(土曜)夜フォレストインにてお祝いの会が開かれました。参加者はいつもより少なめの13人でしたが、“きんぼうげ”という個室でもあり、回りを気にせず和気藹々と始まりました。初めに横田羽村市医師会長からの挨拶が、「会員の節目の歳にお祝いの会を開くのは羽村医師会のよき伝統ともなっているのだからこれからも続けていきたい。お二人は若く見え、いわゆる現代人は暦年齢の7掛けという説もあるし、まだまだお元気に活躍して頂きたい」などあり、続いて堤先生の音頭で乾杯しました。暫し歓談の後、塩沢先生よりお祝いの品が贈られました。今年は幹事が迷った挙句、最近引き出物として流行っているというカタログギフトとさせて頂きましたが、いかがだったでしょうか。次に各々からお祝いの言葉が語られ、稲垣先生の芸術への造詣の深さや横内先生の高齢者医療への関わりを筆者は初めて詳しく知ることが出来ました。そして今回のメインイベントの、稲垣先生ご本人によるチェロ演奏が4曲ありました。重厚なチェロの響きは体全体が揺さぶられるようで、聴いている間は浮世の憂さを忘れさせてくれる思いがしましたが、参加者は其々に感激していたようでした。その後の懇談の中では、館野先生が大学病院のICUに60日も居る大病となり、療養のため羽村医師会を退会したいとの申し出があったことなどが報告されました。会も終わりとなり松原先生の仮締めにつき、真鍋先生の一本締めで和やかに閉会となりました。美味しい食事に音楽や色々な話もあり、なかなか得難い一夜であったと思いました。



羽村地区

定時総会ならびに懇親会

山川医院 山川淳二

4月18日、「割烹かつら」に於いて定時総会と地区会が開かれ、引き続き懇親会が行われました。役員も2期目で更なる飛躍を目指すこととなり、また昨今の医療・社会情勢などを巡り大いに盛り上がりつつ、春の夜は更けていきました。



理事会報告

★ Information

3月定例理事会

平成18年3月28日(火)

西多摩医師会館

[出席者：真鍋・小机・横田・新井・神尾・酒井・瀬戸岡・田坂・中野・野本・原・細谷・松原・足立]

【1】報告事項

1. 都医地区医師会長協議会報告（3月17日）

(1) 都医からの伝達事項

- ① 東京都健康推進プラン21 評価改定委員会報告書について
- ② 国民年金未納者に対する保険医登録の更新について
保険医の登録は対象とならない。
- ③ 日本医師会認定産業医制度における研修会の開催予定について
- ④ 障害者自立支援法と医師のかかわりについての概要について
- ⑤ 平成17年度日医生涯教育制度終了に伴う生涯教育申告書及び報告書提出のお願いについて
西多摩は昨年度91%。
- ⑥ 平成18年度日本医師会生涯教育制度について
継続する。

(2) 協議事項

なし。

(3) 地区医師会からの報告

1. 中央ブロック（当番：下谷医師会）
2. 城東ブロック（当番：江戸川区医師会）
3. 城西ブロック（当番：目黒区医師会）
 - ①保険者に対する「医療費通知辞退届」の送付について（中野区医師会）
4. 城南ブロック（当番：荏原医師会）
 - ①生活習慣病検診における胸部X線について（大森医師会）
5. 城北ブロック（当番：北区医師会）
6. 多摩ブロック（当番：東久留米医師会）
7. 大学ブロック（当番：東大医師会）

2. 各部報告（各担当理事）

総務部：3／27 医療と医政懇談会報告（衆議院議員 井上信治先生を囲む集い）
（45人出席）

保険部：3／23 診療点数改定講習会報告（102 医療機関 256人参加）

産業医：日医産業医研修会開催予定について（18年7月）

学部部：3／22 臨床報告会（55人出席）

3. 地区会よりの報告（各地区理事）

青 梅：4／15 青梅三師会総会。

福 生：なし。

羽 村：3／25 稲垣先生の古希、横内先生の還暦を祝う会。（本号15ページ）

あきる野：3／20 例会。

瑞 穂：なし。

日の出：なし。

4. その他

- 公立福生病院運営世話人会（3／27）

【2】報告承認事項

1. 入会会員について（敬称略） —— 承認 ——

A会員：鈴木寿和（すずき瑞穂眼科・瑞穂）

B会員：小曾木診療所1名

退 会：公立阿伎留病院1名

2. 平成18年度東京消防庁産業医の推薦について（敬称略） —— 承認 ——

秋川消防署 湯川文朗

青梅消防署 井波宏壽

福生消防署 宮川栄次

奥多摩消防署 川辺隆道

（任期：平成18年4月1日～平成19年3月31日）

【3】協議事項

1. フリートンキング

2. 日の出町国民保護協議会設置（国民保護法第40条）に伴う委員の推薦について 継続審議。

3. その他

- 瑞穂町出産育児一時金受領委任払制度の施行について
産婦人科標榜の医療機関にパンフを配布する。
- 新年度第1回の定例理事会開催前（4月11日）に新執行部の記念撮影を行います。

〔出席者：真鍋・小机・横田・玉木・新井・鹿児島・小林・鈴木・田坂・蓼沼・中野・西成田・野本・渡辺(肇)・渡辺(良)・松原〕

【1】報告事項

1. 平成17年度第2回定時総会報告(本号9ページ)

2. 各部報告(各担当理事)

学術部：学術講演会 6. 5

講師：公立阿伎留病院血液透析室長 佐藤安男先生(公立阿伎留病院)

学術講演会 6. 15

「尿失禁」友石純三先生(青梅市立総合病院泌尿器科部長)(幸楽園本館)

学術講演会 6. 28

「糖尿病性腎症の治療」名和知久礼先生 副院長(青梅市立総合病院)

3. 地区会よりの報告(各地区理事)

青 梅：4/15 青梅地区三師会総会。

福 生：特になし。

羽 村：4/18 定時総会(事業報告・会計報告)

あきる野：4/17 総会。

瑞 穂：特になし。

日の出：特になし。

4. その他

- 日本医師会長選挙結果について

有効投票数 350票

唐澤祥人氏 198票 当選 植松治雄氏 152票

【2】報告承認事項

1. 入会会員について(敬称略) —— 承認 ——

A会員：岩波文門((医社)真愛会 双葉クリニック・羽村市)

B会員：目白第二病院2名 公立福生病院8名

退 会：双葉クリニック1名 公立福生病院5名

2. 西多摩保健所結核の診査に関する協議会委員の推薦について —— 承認 ——

変更前 大玉信一会員 変更後 片平潤一会員

任期：平成18年4月1日～平成19年3月31日

(前委員 大玉会員転勤のため交代)

3. 平成18年度西多摩地区市町村結核対策委員会委員の推薦について（敬称略）

—— 承認 ——

西多摩医師会代表 鈴木道彦・中野和広
地区学校医の代表 瀬戸岡俊一郎・細谷純一郎
任期：平成18年4月1日～平成19年3月31日

4. 東京労働保険医療協会評議員の推薦について —— 承認 ——

真鍋 勉（真鍋クリニック）会員を推薦する

【3】協議事項

1. 理事会の運営の仕方について

2. 平成18・19年度本会各部分掌表・医道審議会一覧表（案）について —— 承認 ——

3. 平成17年度事業報告（案）について

次回理事会で決定。

4. 平成17年度西多摩地域産業保健センター精算報告（案）・平成17年度西多摩地域脳卒中医療連携事業実績報告（案）について（提出日18.4.10） —— 承認 ——

5. 平成18年度第1回定時総会について

5月26日（金） フォレストイン昭和館
総会議題について
総会前の講演実施などについて（公立阿伎留病院担当）

6. 歯科医院の施設基準（歯科疾患総合指導料）届出について協力の件
（4月4日付け会員 fax 配信済）

7. その他

- 各地区保険指導整備委員会委員（定数）の名簿を事務局へ提出願います
- 東京都国民保護計画について（各行政より委員の推薦依頼に対処）（参考資料）
- 平成18年度第1回定時総会迄の日程



あ と が き



平成16年6月号より2年間、編集委員長として医師会報発刊に携わらせていただきましたが、本号を持ちまして私は任務終了となります。今あらためて24冊を手にとってページをめくってみますと、1冊1冊に思い出があり、大変であったが充実して楽しかったという気持ちが強く残っています。特に、本年4月号は記念すべき400号となり、プレッシャーも感じましたが、その発刊に関われたことは大変光栄なことと思っております。

この2年間ご寄稿いただきました諸先生方、“専門医に学ぶ”のコーナーでコーディネーターをお引き受けいただきました青梅市立総合病院院長 原先生、公立福生病院外科 五月女先生、公立阿伎留病院副院長 西成田先生、“感染症だより”を毎月お送りいただきました西多摩保健所感染症対策係の皆様、毎月編集委員会に出席していただきました編集委員の先生方、情報収集・情報整理を行っていただいた事務局の永井事務長、鈴木さん、野口さん、そしていつもこちらの希望以上に体裁よく会報をアレンジしていただいたマスダ印刷さん。皆様のお陰で2年間無事に会報を発刊し続けることができました。この場をお借りして感謝の意を表したいと思います。本当にありがとうございました。

6月号より鹿児島編集長にバトンタッチいたします。諸先生方引き続きご寄稿を宜しくお願い申し上げます。

野本正嗣

訃 報

高水 直子 様 (85歳)

瑞穂町箱根ヶ崎282

高水医院

院長 高水松夫先生(御母堂さま)

去る4月13日ご逝去されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

訃 報

木佐森 てい 様 (99歳)

青梅市河辺町10-13-1

河辺皮膚科神経科医院

院長 中林厚子先生(御母堂さま)

去る4月19日ご逝去されました。

謹んでお悔やみ申し上げます。

お知らせ

事務局より お知らせ

平成18年6月(5月診療分)の

保険請求書類提出

6月8日(木)

— 正午迄です —

法律相談

西多摩医師会顧問弁護士 鈴木禧八先生による法律相談を
毎月第2水曜日午後2時より実施しておりますのでお気軽に
ご相談ください。

- ◎相談日 5月は10日(水)
6月は14日(水)の予定です。
- ◎場所 西多摩医師会館和室
- ◎内容 医療・土地・金銭貸借・親族・相続問題等民事・
刑事に関するどのようなものでも結構です。
- ◎相談料 無料(但し相談を超える場合は別途)
- ◎申込方法 事前に医師会事務局迄お申込み願います。
(注)先生の都合で相談日を変更することもあります。

社団法人 西多摩医師会

平成18年5月1日発行

会長 真鍋 勉 〒198-0044 東京都青梅市西分町3-103 TEL 0428(23)2171・FAX 0428(24)1615

会報編集委員会 野本 正嗣

瀬戸岡俊一郎 石井 好明 桂川 敬太 込田 茂夫 坂井 成彦
鈴木 道彦 馬場 眞澄 葉山 隆 細谷純一郎

印刷所 マスダ印刷 TEL 0428(22)3047・FAX 0428(22)9993

健康が 21世紀の扉を開く



命の輝きを見つめ続けて……
(株)武蔵臨床検査所

食品と院内の環境を科学する
F・S サービス

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 042-964-2621 FAX 042-964-6659

地球の健康とすべての人々の
健康で豊かな生活に貢献したい。
それが私たちスズケンの
壮大なテーマです。



May I
"health"
you?
健康創造のスズケン

 **SUZUKEN**
<http://www.suzuken.co.jp>